

## 7 新施設の展示計画

### (1) 展示テーマと運営及び種類

#### ア 展示のテーマー高尾山に営まれる、「自然」と「人」の関わり

高尾山には、大都市に近接しながらも貴重な自然が守られ、受け継がれてきた。また、その自然を舞台とした歴史が刻まれてきており、744年に開山されたという寺伝をもつ薬王院がその象徴である。

展示の主軸は、高尾山が有する有形無形の資源を、「自然」「人」の両面から掘り下げ、聖なる山の本質に迫る内容とする。

高尾山の自然	・多様な植物群落と多様な動植物を育む森林生態系 ・最も自然の状態に近いモミ林、カシワ林、ブナ・イヌブナ林 等
高尾山の歴史・文化	・薬王院の歴史をはじめ、高尾山とその周辺の変遷 ・過去から現在にいたる山と人々との関わりの変遷 等

#### イ 展示の運営－利用者一人ひとりの活動の舞台となる展示環境づくり

見る・眺める・鑑賞するといった行為に終わらない“人の力”を介した、わかりやすく説明力のある展示とする。例えば、四季の移ろいを伴う自然を相手にしているため、展示資料は、鮮度をもたせるうえで定期的に更新する。また、登山や自然観察といったフィールドワークに役立ち、屋外活動のモチベーションを高めるような展示とする。また、利用者自らが、地域の歴史・自然の魅力を自分なりの見方で紹介できるような参加型の展示も試みる。

#### ウ 展示の種類

展示の種類は、一般観光客を対象にした、わかりやすい〈常設展示〉、見てみたいと思わせるような話題性のある〈企画展示〉を、さらには高尾を中心とした地域の観光サービス拠点としての役割を勘案し、〈観光情報サービス展示〉の3種類の展示を計画する。

##### (ア) 常設展示

東京都から継承した旧博物館収蔵資料をもとに、高尾の自然、歴史・文化を総合的・体系的に捉えられる展示。

##### (イ) 企画展示

収蔵資料の展示に限らず、時宜に応じたテーマ設定のもとに、多様な展示資料を集め解説する展示。常設展示に比べ、展示期間が設定されており、イベント性・話題性の強いテーマ・内容での展示とする。

#### (ウ) 観光情報サービス展示

高尾山登山や周辺地域巡りなど、高尾一帯での観光行動をサポートする展示である。人を介した相談・案内などのサービスに加え、観光に役立つ情報メディア(印刷配布物)や情報データベース(情報検索パソコン)を整備する。

### (2) 旧東京都高尾自然科学博物館資料の概要と活用方針

東京都から移管された資料の内容は下記の通りである。保存管理を優先すべき資料と展示・活用可能な資料とがあり、新施設での活用と旧稲荷山小学校での保存との整理を進めていく。

#### ア 資料の概要

種類・数量は、植物標本 7094 点、動物標本 543 点、地学標本 3 点、昆虫標本 19525 点で、これ以外に展示用として鳥類・象の模型、説系板、陳列ケース等がある。

#### イ 資料の活用方針 —資料価値を踏まえた適正な「保存」と「活用」を行う—

旧稲荷山小学校で管理している資料には、絶滅種、絶滅危惧種など、貴重性の高さから収蔵を優先すべきものと、展示等の学習対象に活用可能なものがある。展示や学習プログラムにおいて、実物資料は何物にも代え難いホンモノとしての訴求力を発揮するため、できるだけ、資料の「活用」は積極的に進める。展示活用の基本的な考え方は、絶滅種、絶滅危惧種など著しく貴重な資料は保存を優先する。そのほかの資料は、劣化を防ぐ処置を充分に行ったうえで、可能な限り活用する方向で対応する。

### (3) 常設展示の内容

#### ア フィールドワークへのきっかけを提供する、モチベーション誘発・充足型展示

本施設の最大の特徴の一つは、高尾山の豊かな自然や歴史・文化を目前にひかえた立地条件といえる。従って、利用者から期待され、果たすべき展示の役割として、高尾山でのフィールドワークに役立つ情報や学習機会の提供(モチベーション誘発)を行うとともに、屋外での活動で抱いた疑問や興味を充足させるような展示とする。

#### イ 自然・歴史の基本を抑え、広く学習ニーズに対応した展示内容

想定される利用者のなかで、大きな割合を占めるものに、東京都を中心とした小・中学校の児童・生徒の存在がある。校外学習として訪れるこれらの利用者にとって、高尾山への理解が深められ、自然の魅力が発見できることが重要である。各学年での学校教育カリキュラムを視野に入れた、

展示内容の検討を行うことが必要である。

#### ウ “実物”のリアリティが魅力となる、収蔵資料を活かした展示

東京都から移管された収蔵資料は、博物館機能を発揮するうえで欠くことのできない貴重な展示資源である。博物館が保有する資料は、学術的価値を持つとともに、他に代え難いホンモノだけが有する“実物資料”としての価値も有している。この価値を、‘ここだけの’価値として一般観光客が興味を抱くような斬新な展示形態に置き換える。‘

#### エ そこで過ごすこと自体が魅力となる、利用者にとって居心地のいいスペース提供

近年の展示空間は、学習などの知的欲求を充足する場として機能するだけでなく、知的好奇心を喚起する場として機能することも期待されるようになってきた。実物資料が有するリアリティや、映像等の最新技術がもたらす演出性などに趣向を凝らし、かつ建築空間や屋外環境も取り込みながら、利用者にとって心地よいやすらぎの場づくりを図る。

#### オ 高尾山のアウトライン紹介

高尾山の歴史文化、自然・地勢の概略をわかりやすく展示する。

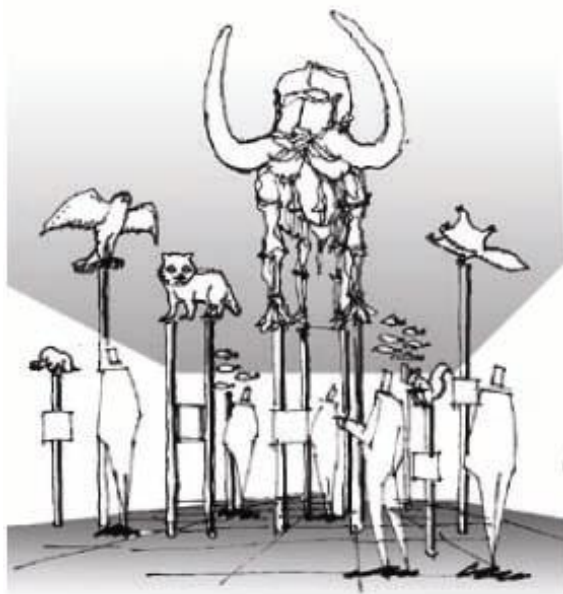
何故、高尾山の自然が守られてきたのか、この素朴な疑問に答えながら、人と自然が織りなす高尾山や薬王院の歴史と現在を紹介する。展示空間は、高尾山の雰囲気醸し出す内容とする。

#### カ 触れられる展示

資料のレプリカや本物の樹木、石等を材料にして、自由に触れられる展示を行う。モノの形や重量を触れることで新たな発見につながる。特に、視覚障害者に喜んでもらえるものとする。ユニバーサルな展示の1形態であるが、子供たちにとって本物に触れることの驚きから膨らむ想像力は大きい。全国的にも、このような触れられる展示の取り組みがなされてきている。

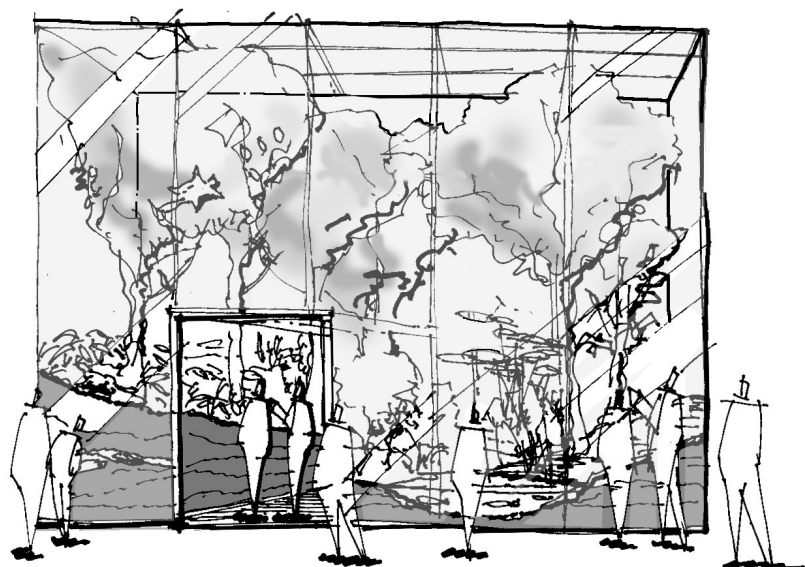
## 常設展示 — 高尾の生きものたち

高尾の里の拠点施設は、高尾山の麓に立地し、その空間的特徴の一つに高尾山＝自然との接点という性格がある。そこで、新施設のエントランス部分に、自然界のキャラクター、高尾山地域に生息する(した)生き物たちを展示し演出効果をあげる。



## 常設展示 — 高尾の自然ウォークイン・ジオラマ

森林を学習するうえで、“高尾山の自然”を凝縮して、その魅力や見所・特徴をわかりやすく展示する、自然を立体的に捉えたジオラマ展示が考えられる。眺めるだけの展示になることは避け、訪れるたびに新たな発見を楽しめるよう、更新性を備えたジオラマであり、人による解説の場としても機能する。



#### (4) 企画展示の内容

##### ア 魅力ある個性的なテーマ設定で多くの人々の関心を集める展示

企画展示で最も重要なことは、博物館機能の継承を具体化しながらも、市民ニーズをしっかりと見据え、より多くの人々に楽しまれる企画を推進することである。社会的関心や旬なフィールド状況など、時宜に応じたタイムリーなテーマ設定に基づく企画展示を行う。

##### イ 企画内容の可能性を高めるフレキシブルな展示

企画展示を行う空間は、多様な企画をできるかぎり受け入れやすくするため、フレキシブルな展示方法を採用する。壁面構成や空間間仕切りなどを簡易に変更できるシステムを備えることで、多様な展示構成を可能とする。また、資料保存の質的な内容は、コストと大きく関わるため今後の検討課題とする。

##### ウ 展示企画そのものに特色を持たせる企画

展示企画の品質を高める方法は、企画立案のあり方にかかっている。優秀な企画人員を配置することに加え、市民のアイデアを反映できるような企画展示など市民参加の仕組みも検討する。

##### エ 企画展示のテーマ例

<例1>「高尾山の宝」展 ―展示資料の貴重性・稀少性を核とした企画―

薬王院に伝わる歴史・文化遺産資料と、高尾山の自然環境の特徴を物語る貴重な標本資料を中心に、高尾山に由来する“宝物”に焦点をあてた展示。人文科学と自然科学の両面からの複眼的な視点から高尾山を捉え、更なる関心を引き起こす展示構成とする。

<例2>「私の高尾山」展 ―学術性とは異なる、市民に身近な好奇心を核とした企画―

高尾山観光客をはじめ、高尾をフィールドに活動するアマチュア研究者や個人・サークルなど、多様なジャンルの一般市民が、それぞれの好奇心で高尾山を捉えた成果を公開する展示。昆虫、植物、山菜、料理、文学、地質、気象、歴史、暮らし等々、自由さ多様さと市民の参加性が企画のポイントとなる展示構成とする。

<例3>「ビンゴで高尾山」展 ―フィールドとの近接性を活かすワークショップ的企画―

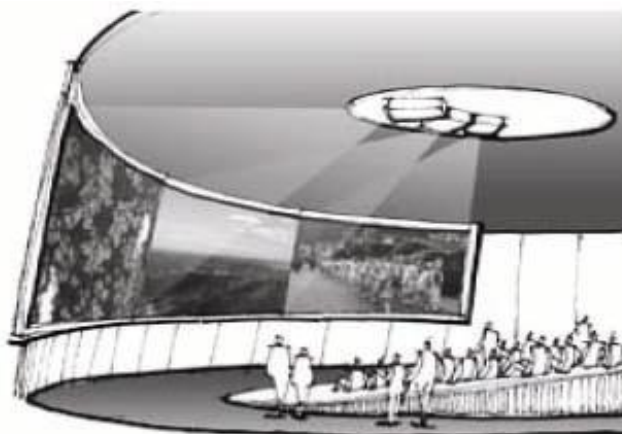
展示室と屋外フィールドの屋内外を往復しながら構成する企画展示。展示室では、高尾山の特徴を物語るキーワードを表現し、キーワードが伝えようとする内容の核心は、屋外で確認する仕組みで屋内外を行き来する。エピソードやキーワードを一覧整理した簡易印刷ツールを使用後は、自らの成果として展示室を飾り付けるパーツともなる。

#### 例 4 ムササビの一生 個体に焦点をあて、生命の神秘を探る企画

高尾山に生息する生物の個体に着目して、個体から自然に近づき、生命の不思議さを認識できるような展示。可能な限りガラスケースではなく、近くで剥製に近づき動物の迫力を感じてもらおう。例えば、ムササビはどのように生まれ生活しているか、映像・スライドも用いて子どもにも、わかりやすく、かつ質の高い展示をめざす。

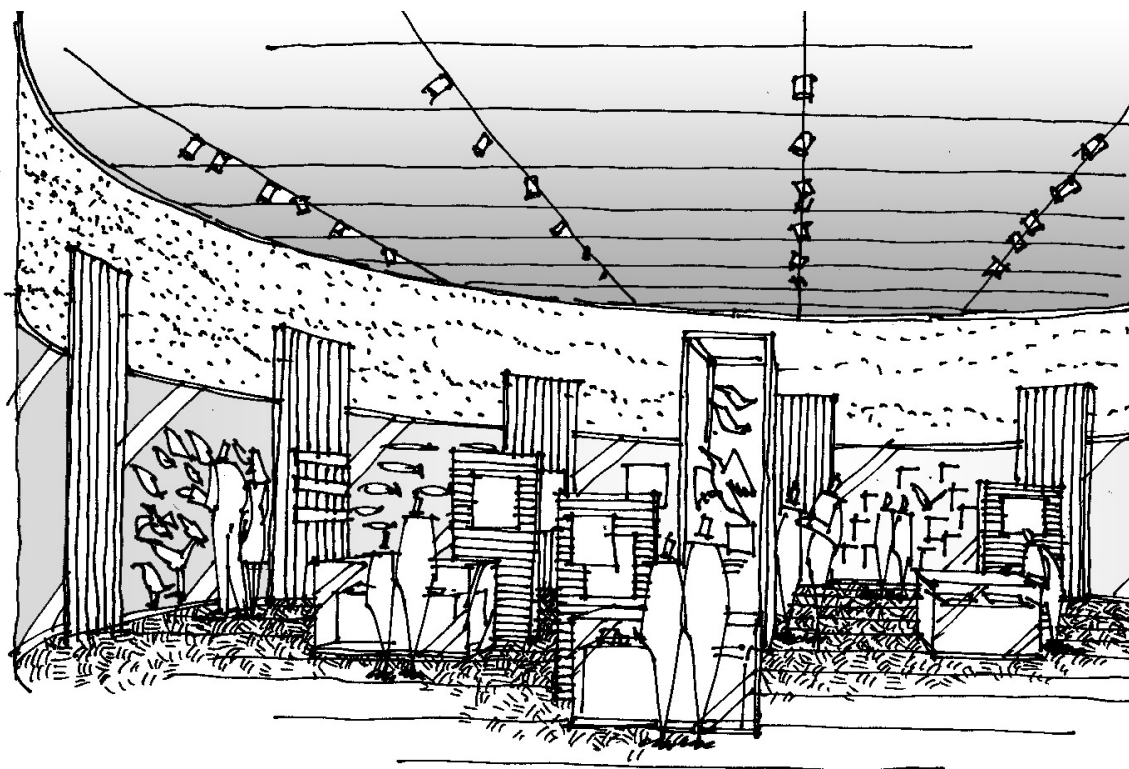
### 企画展示兼映像ホール — 高尾山の世界「自然・歴史・文化」

校外学習や集団視察など、団体での利用が増えることが予想される。その際の対応として必要とされるのが、団体客を収容するとともに、効率的に情報サービスを行える環境の整備である。その一つが、多人数を収容・サービスできる映像ホールである。ここは、大空間の特性を活かした企画展示の場としての利用も考えられる。



### 企画展示 — フレキシブルギャラリー

旧博物館から継承した標本資料を、テーマに合わせて採用し、標本の貴重性や美観を巧く空間演出に活かした展示づくりをめざす。



## (5) 観光情報サービス展示の内容

### ア 高尾山・八王子の観光に関する多様な情報を集積・公開する、充実したデータベース機能

本施設の利用者は、観光・レジャーを目的とする人々が多いことが想定できる。従って、高尾山はもちろん、周辺地域を含めた観光行動に役立つ多様な情報（観光スポット情報、交通情報、旬情報等）を集積・公開する。豊富な情報内容の種類とともに、IT 媒体から印刷物まで多様な情報伝達メディアを検討する。

### イ 人的対応を支えるレファレンス機能に優れたインフォメーション環境

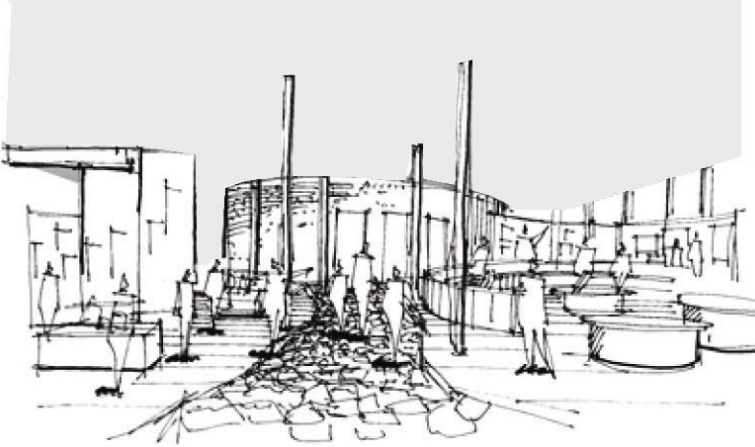
観光情報は、これからの観光行動をより充実したものとしてもらうための情報であり、利用者一人ひとりの事情に即した情報提供を行う必要がある。そのため、個別ニーズに適宜対応できる人材を配置する。レファレンス能力に長けたスタッフを配置することに加え、空間・設備環境もレファレンスしやすい設えとする。

### ウ 観光情報の収集と発信を介した利用者同士の交流の場

観光情報サービスには、公的に保証された信憑性のある情報提供とともに、一般の市民の目線から取り上げたクチコミ的な情報ソースを備えることも、魅力的な情報サービスである。市民一人ひとりの好奇心や感性から編まれた情報を、観光客へ提供する仕組み（場・システム）を設け、市民同士の交流を育む。



## ■空間イメージ

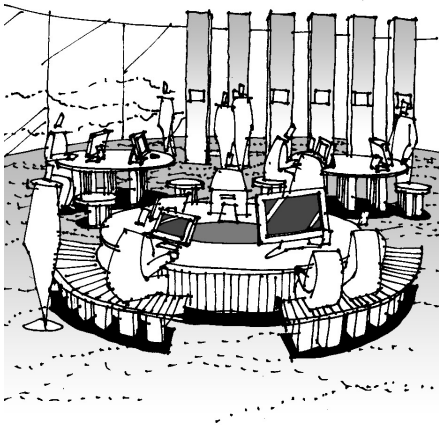


### ●エントランスホール

高尾の里の総合的なサービスを提供する拠点施設の顔となるエントランス。

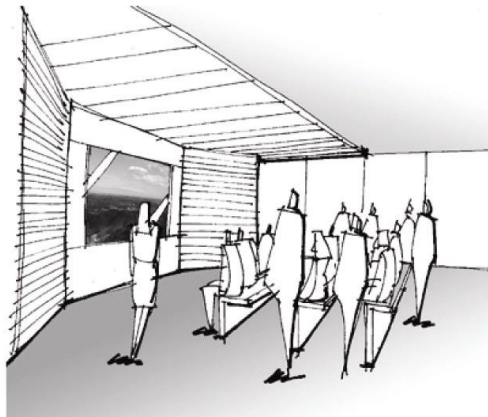
拠点施設が担う「自然」「歴史」「伝統文化」といったテーマ空間の索引(インデックス)機能を担うとともに、待ち合わせ場所等としての利用も可能なニュートラルな環境とする。

### ●データベースラウンジ

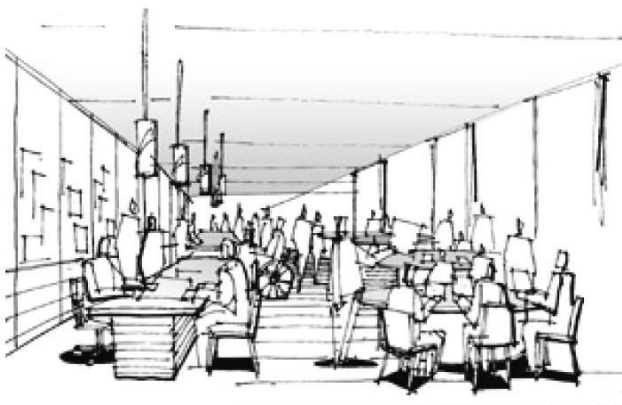


高尾の里周辺での多様な活動をナビゲート(案内・誘導)する機能を担うものとして、利用者が自由に情報収集できる情報データベースの空間を設ける。情報の種類としては、観光関連、環境学習関連、調査研究関連、伝統文化関連などのジャンルが想定される。

### ●ガイダンス映像ミニホール



高尾の里の全体像をはじめ近隣の観光地点・施設・眺望ポイントなど、高尾地域での主な観光対象・見所を端的にまとめた観光プロモーション映像を上映する場。



### ●レファレンスカウンター

高尾山登山での見所・注意点の案内や、登山に限らない高尾の里周辺での過ごし方など、利用者ごとに異なる情報ニーズに対応する、人を介した接客の場。

トレッキングやウォーキングなどのプログラムツアーの発着ターミナルとしても機能する。

## 8 古民家の移築改修計画

### (1) 改修計画の前提

古民家（旧金子邸）は、伝承では浅川地区に明治 22 年に建設されたもので、現在、全て解体され部材が保存されている。これを移築して八王子車人形等の公演の場とする。

建物内部は公演と観覧に支障がないよう全面的に改装する。古民家は住宅であったので、小さな部屋で構成され柱が多く存在していたが、芝居小屋として成立させるには、公演及び観覧に支障のないよう柱及び梁を取る必要がある。また、構造的にも筋交いがなく、今日では法的な安全性がない。このため、移築の前提として、主体構造は鉄骨等で構成する。但し、可能な限り木の柱、梁の再利用等を図り、民家や芝居小屋の雰囲気を出す方針である。階数は、原則平屋とする。

また、楽屋等を確保するため、裏側部分に増築を行い、延べ床面積は約 300 m<sup>2</sup>とする。さらに舞台上部の幕を収納する吹抜け（フライロフト）を確保するため、一部建物を高くするが最高高さは 10 m 以下とする。なお、高さについては、景観面や隣地等の影響を考慮し今後検討する。

外観についても、古民家の意匠を踏襲することになるが、明治時代からの建物であるため瓦や下見板、あるいは建具等の老朽化が目立つため、新しい材料で構成する部分もある。

### 旧金子邸

